

ONE WORLD

Info

英語教育 通信

28年度版
教科書
紹介号



特集：ONE WORLDをよりよくお使いいただくために
ONE WORLD English Courseの特徴 … 本多 敏幸
別冊Essentialsのねらいと活用法 … 野田 小枝子
小学校外国語活動との連携 … 泉 恵美子

Springboardの指導事例

音声指導から文字指導へ … 赤沢 真世

小学校の現場から

英語教育推進リーダー研修を終えて … 久保 稔

文科省関連情報

どうなる？ 次期学習指導要領と今後の英語教育

連載

とっておきの英語11 … 野田 小枝子
今ドキ英語事情13 … Peter J. Collins



別冊にはすべての基本文・
重要語句を収録しています。

教育出版

ONE WORLD English Courseの特徴

千代田区立九段中等教育学校 本多 敏幸

1 はじめに

「平成27年度英語力調査結果（中学3年生）の速報（概要）」（文部科学省）によると、
・「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能がバランス良く育成されていない。
・学習意欲に課題がある。
・特に「話す」「書く」の言語活動が十分でない。
・技能統合型の言語活動・指導が十分でない。
などの問題点が指摘されています。そして、これらの問題点を改善するため、次のことが求められています。
・生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、主体的に学ぶ意欲

や態度の育成を含めた具体的な指標形式の目標を設定し、生徒が達成感を得られるようにする。

・基礎的な知識・技能を活用し、生徒の互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を豊富に体験させ、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする総合的なコミュニケーション能力を高める必要がある。

ONE WORLD English Course（以下、「OW」）では、従来からこれらの点に力を入れた教科書づくりを目指しています。その特徴をいくつか紹介いたします。

紙面例1 3年本冊 pp.142-143

付録

Can-Do 自己チェックリスト

学習到達目標をどれくらい達成できたか、自分で確認しよう。
自己評価のマークを○で囲もう。

	3年学習到達目標	関連箇所	自己評価
①	相手の話で分からないことについて質問したり聞き返したりしながら、会話を続けることができる。	Conversation Tips など	😊 😐 😞 😡
②	簡単な表現やきまり文句を使って、自分の要望を伝えることができる。	Time for a Skit など	😊 😐 😞 😡
③	準備をすれば、身近な話題について、聞き手にわかりやすいスピーチを書くことができる。	Project 2 など	😊 😐 😞 😡
④	理由や例を挙げて、相手に説明する短い文章を書くことができる。	Writing Tips など	😊 😐 😞 😡
⑤	新聞、レポート、ガイドブックなどの形式で、身近なことを説明する短い文章を書くことができる。	Project 1 など	😊 😐 😞 😡
⑥	話題や事柄について、つながりのあるまとまりのある文章を書くことができる。	各課各 Part の Activity 3, Project 2 など	😊 😐 😞 😡
⑦	教科書の内容や課題などについて、自然な口調でもはっきりと説明できれば、要点を理解することができる。	授業における説明など	😊 😐 😞 😡
⑧	身近な話題のニュースやコマーシャルを見て、概要を理解することができる。	Lesson 4 など	😊 😐 😞 😡
⑨	日常生活に関する身近な話題についての話を聞いて、詳細を読み取ることができる。	各課各 Part の Activity 1 など	😊 😐 😞 😡
⑩	料理レシピや歌のつくり方についての説明を読んで、内容を理解することができる。	Lesson 1 本文など	😊 😐 😞 😡
⑪	物語を読んで、物語の順序や大切な部分を把握しながら、内容を理解することができる。	Reading Tips, Lesson 3, Reading Lesson など	😊 😐 😞 😡
⑫	簡単な語彙で書かれたまとまりのある文章を初級で読んで、内容を理解することができる。	各課の本文, Reading Lesson など	😊 😐 😞 😡

	1年学習到達目標
①	場所、時間、人物などについて、質問をしたり、質問に答えたりすることができる。
②	スポーツや学校などの身近な話題があれば、短い話をすることができる。
③	準備をすれば、知り済んだことについて、相手に伝えたりすることができる。
④	習得できていることや得意にしたことなどを書くことができる。
⑤	相手の話や自分の話などを知りたいときに、質問をいくつするかをすることができる。
⑥	自分のことや他人のことについて、つながりのあるごく短い文章を書くことができる。
⑦	教科書の簡単な部分を見て、理解することができる。
⑧	好きなテレビ番組や学校生活などに関する自己紹介を見て、理解することができる。
⑨	よくくり返されれば、天気や時刻など自分の必要なことを聞いて、理解することができる。
⑩	簡単なストーリーカードなどの短い文章を読んで、理解することができる。
⑪	自分の話や他人の話が書かれた文章に短い質問を読んで、理解することができる。
⑫	簡単な語彙で書かれた短い物語や説明を読んで、内容を理解することができる。



	2年学習到達目標
①	話題など自分の身近な話題に関連して、簡単な質問の答えをすることができる。
②	自分が経験したこと、読みたり聞いたことについて、趣向や感情を伝えたり述べたりすることができる。
③	準備をすれば、自分がしたことや相手の事について短いスピーチを書くことができる。
④	自分が得意にしたことやその感想などについて短文を書くことができる。
⑤	自分の意見を述べた簡単なレポート、新聞、日記などを書くことができる。
⑥	話題や事柄について、つながりのある短文の文章を書くことができる。
⑦	よくくり返して見れば、活動のやり方などの説明を聞いて、理解することができる。
⑧	自分自身や学校・地域などの身のまわりの話題についてのスピーチを見て、理解することができる。
⑨	日常生活の身近な話題についての話を聞いて、質問の答えを聞き取ることができる。
⑩	スポーツ・音楽・旅行など他人が興味のある話題に関する文章を読んで、その内容を理解することができる。
⑪	短い文章を読んで質問をするのが具体的に説明することができる。
⑫	簡単な語彙で書かれた短い物語や説明を読んで、イラストや写真を参考にしながら内容を理解することができる。

2 ONE WORLDにおける学習到達目標

OWでは、従来から到達目標を設定しています。平成18年度版及び平成24年度版には、到達目標を各ユニットの扉に明記し、それぞれのユニットを学習して身に付く力を学習者である生徒が理解できるようにしていました。平成28年度版のOWでは、**Can-Do自己チェックリスト**を巻末に掲載しています（前頁の紙面例1参照）。

従来の学習到達目標の表し方から大きく変更した点は、年間の目標として設定したこと、どの学年においても3年間分の学習到達目標を明示していることです。これまではユニットの冒頭でそのユニットの目標だけが分かる形式でしたが、3年間分の学習到達目標を示すことにより、今後の学習でどのような力が身に付けられるのかを見通すことができるとともに、これまでどのような力が身に付けられたのかを振り返ることができるようにしています。

OWのCAN-DOリストは「教員と生徒が共有できる学習到達目標」を目指しています。教科書や教室内で想定する活動をもとに学習到達目標を考え、それを生徒の目線に合わせて能力記述文で表しています。また、当該学年の各学習到達目標には「自己評価」の欄を設けています。生徒が授業やテストなどで行った自分自身のパフォーマンスを振り返り、その達成度を確認しながら主体的に学んでほしいという願いを込めています。

3 学習到達目標を達成するための言語活動

基本文を言ったり書いたりさせただけでは、十分な指導とは言えません。語句を入れ替えての口頭による練習などを行い、最終的に自分で考えて使う練習が必要です。

平成28年度版のOWのレッスンは、**Hop** (Part 1と2)と**Step** (Part 3と4)の2部構成となっています。Hopでは生徒が使う語

彙の補充 (Tool Kit)、聞くこと、話すこと、書くことの活動 (Activity) を設けています。これらのページを行うことにより、CAN-DOリストの学習到達目標を達成するための基礎・基本となる力を養うことができます。たとえば、2年生の書くことの学習到達目標には「趣味や事物について、つながりのある数文の文章を書くことができる」と設定しています。つながりのある文章を書けるようにするためには、文法のターゲットとなる1文だけを書かせるだけではなく、つながりのある複数の文を頻繁に書かせることが不可欠です。そこで、HopのActivity 3では、複数の文を書かせるタスクを設定し、生徒に文脈を考えさせる習慣を身に付けさせるようにしています（紙面例2参照）。

紙面例2 2年本冊 p.47

Lesson 4

Activity

Tool Kit There are many foreign people in my town.

1 many foreign people 2 a beautiful park 3 a lot of convenience stores

4 some hospitals 5 a tall tower 6 two curry shops

Listen

1. KumiとChrisの対話を聞いて、Kumiの住む町にあるもの・ないものをメモしよう。

●あるもの ●ないもの

Speak

下の地図を30秒観察して、町に何があるか覚えよう。
そのあと教科書を見て、何があるか例にならって友だちと対話しよう。

A: There is a park in this town.
B: Yes, there is.

Write

例にならって、あなたの家の近くや町にあるものを紹介しよう。

There is a good restaurant near my house.
My family and I sometimes eat dinner there.

● tower | flower | flower | flower

forty-seven | 47

学習到達目標として設定した技能を身に付けさせるためには、授業で実際にパフォーマンスをさせる必要があります。OWでは、平成18年度版より各学年に3つ前後の**Project**

紙面例3 3年本冊 pp.38-39

Jump Project 1

自分たちの町のガイドブックをつくろう！

外国からのお客さん、A.L.T.、海外の友人などに自分たちの町の人気スポット、お勧めレストラン、おもしろい店、住んでいる有名人などの情報を盛りこんだ英語のガイドブックを作成して紹介しよう。

1. 横浜に住んでいる生徒たちの会話を聞いて、紹介しようとしている場所とその理由を線でつなごう。

場所	理由
ベイブリッジ	● ラーメンがおいしい
中華街 (チャイナタウン)	● チャーハンがおいしい
らいらい軒	● 観光客に人気がある
ぼんぼん軒	● 街のシンボル
みなとみらい	● 美しいお店がたくさんある

目標：構成を考えて、自分たちの町のガイドブックをつくることができる Can-Do

3. 横浜の生徒たちがつくったガイドブックの例を見て、自分たちのガイドブックの参考にしよう。

Yokohama Chinatown

How to Get There
The closest stations to Yokohama Chinatown are Motomachi-Chukagai Station and Ishikawacho Station.

4. グループで、あなたの町を紹介するガイドブックをつくる準備をしよう。何をどのような理由で紹介するかについて、メモを取りながら話し合おう。

場所 / 店	理由

(プロジェクト活動) を配置しています。このProjectを行うことにより、教科書の学習を通して身に付けた知識や各技能を総合的に使用する機会が与えられています。これらの言語活動が中期的な達成目標と言ってもよいでしょう(紙面例3参照)。

さらに、**Listening Tips**, **Reading Tips**, **Writing Tips**, **Conversation Tips**を随所に配置し、英文を聞いたり読んだり書いたりするコツ、会話を行う際のコツが身に付けられるようにしています。たとえば、2年次の話すことの学習到達目標として、「学校生活などの身近な話題であれば、感想を交えながら会話をすることができる」を設定していま

す。これを達成するために、1年次のConversation Tipsでは、相づちを打ちながら相手の話を聞くこと、2年次では、感想を交えながら話すこと、相手の言ったことに対して質問することの練習コーナーを設けています。即興的な発話力を養うためにも、教科書に書かれているTipsを参考にした継続的な指導が大切です(紙面例4参照)。

4 おわりに

ONE WORLD English Courseの特徴を理解していただき、授業に生かしていただけることを願っております。

紙面例4 2年本冊 pp.42-43

Conversation Tips 2

目標：会話を長く続けることができる Can-Do

相手の言ったことに対して、質問しよう。

How was your summer vacation?

It was great!
I visited my grandparents.

Oh, really?
Where do they live?

They live in Kochi.

Tips コツ

関連する質問をすることで、相手の話に興味をもって聞いているというサインになり、また会話を続けていくことができます。

関連の例

Listening Tips 1

目標：自分の必要な情報を聞き取ることができる Can-Do

情報の聞き取り方を身につけよう。

美術館 (art museum) に行くとき、特別な持ちものはあるかな？
英語を聞いて、必要なものに○を記入しよう。

() () () ()

Tips コツ

● 自分の知りたい情報がどこで言われるのか集中して聞くことが大切だよ。すでに知っている情報や関係のない情報は聞き流そう！

● 知りたい情報だと思ったら集中しよう。その情報だけ頭の中で繰り返して、覚えるようにするといふ。場合によってはメモを取ろう！

別冊Essentialsのねらいと活用法

津田塾大学大学院 野田 小枝子

1 別冊のねらい

教科書編集は、常に現行の学習指導要領を見据えながら次の指導要領の方向性、次の時代の英語教育を視野に入れていかなければならない作業になります。平成20年に改訂され、24年度から施行されている中学校学習指導要領が目指すところは、「外国語」について言えば、「発信力」重視、「4技能の総合的育成」が大きな比重を占めると思います。そして、今後の英語教育の方向性を見るならば、ますます確実な基礎力と柔軟な発信力の育成が望まれるのは間違いありません。しかし、教科書の本冊に取り込める活動や生徒が自分で学習する教材には限りがあります。「確実な基礎力」を育むには、生徒が自分で行う反復練習と少しでも多くのインプット活動が必要です。また、「柔軟な発信力」を培うには少しでも多くのアウトプット活動が必要です。

学習者が自己学習できるセット（a self-study kit）を提供し、かつ、基礎力・発信力をつけるインプット・アウトプットの材料を豊富に提供することは、教科書の役割として大切なことであると考えます。「確実な基礎力」、「柔軟な発信力」を育むツールとして、かつ学習者が自ら進んで学習できるツールとして活用していただける切り離し教材を提供すること、それが別冊のねらいです。「教科書を使った基礎・基本の定着」を図りながら、教科書の内容をカバーした後で、別冊を使った活動を通してさらに定着を図っていただければ、また、自己学習と組み合わせで「基礎・基本の定着」からより自由度の高い活動への準備として使っていただければと願っております。

2 豊富なインプットを提供するPLUS DialogとアウトプットのためのPLUS Activity

まず、PLUS Dialogは、教科書と異なる文脈で基本文を用いた対話です。同じ基本文でもさまざまな文脈で触れさせ身につけるのが望ましく、もう1つdialogがあることで、それだけ多くのインプットに触れさせられます。PLUS Dialogの活動は、まず、CDなどで音を聞くことから始まります。それを理解してから、友だちと対話を練習し、次に、下線部を換えて練習するようになっています。

PLUS Activityの活動は、さらにもう一歩進んで、与えられた話題を参考に、自由に話したり書いたりする活動です。こちらもしスニングで聞けるところが多くあります。対話をそっくり変えて練習してもかまいません。1年別冊p. 19, Lesson 4 Part 3のように、作業してから対話する活動なども含まれています。クイズのようにすることで、意味のあるシチュエーションでの活動を作り出しています。

別冊に掲載のPLUS DialogとPLUS Activityは、インプットの量を増やして基礎力をつけるとともに、「使うことで定着させる」ためにアウトプットの量も増やすことをねらいとしています。たとえば1年本冊pp. 80-81, Lesson 6 Part 4の本文では、オーストラリアの学校の時程について扱っています。言語材料としては“how many”や、“how long”の疑問文とその答え方を扱っており、目標は「ものの数や時間の長さについての情報を交換できる」となっています。

別冊のPLUS Dialogでは、ある人の出身国についてのやりとりになっています（次頁の紙面例1参照）。

この対話を“How long is the walk from your home to school?” “How long is the bus

ride to school?”なども使い、自分の町についての対話にしてもよいし、ある俳優や有名人などになりきって自分のことが言えるように準備しておいて答えさせてもよいでしょう。さらにPLUS Activityでは、Aは相手(B)が好きそうなものに話を向け、相手が相槌を打ったら“how many”を使って質問をするという対話が表示されています。応用として、次のような会話もできます。

A: Do you like soccer?

B: Yes, I'm on the soccer team.

A: How many hours do you practice every day?

B: About one hour.

このような練習をし、使っていくことで基本文が身についていきます。この別冊を使うことで基本文の表現を使うさまざまな文脈のインプットが増え、使う機会も増えることになります。

紙面例1 1年別冊 p.31

Lesson 6 Part ③ (教科書 p. 80~81)

【数や長さについてたずねる】

PLUS Dialog

最初に英語を聞いて、ペアで対話しよう。
次に下線を自由にかえて対話しよう。

教科書 p. 8~9 Springboard
会話の場面を想像しよう。
p. 14 Springboard ④ 練習

A: Where are you from?
B: I'm from Singapore.
A: How many people do you have in your country?
B: About 5,400,000.
A: How long is the flight from Japan?
B: It's seven or eight hours.

And More Words

people 人
5,400,000
= five million four hundred thousand
million 100万 flight 飛行 hour 1時間

PLUS Activity

身のまわりのものについての対話です。
最初に英語を聞いて、ペアで対話しよう。
次に例を参考に、自由に対話しよう。

A: Japanese manga are very popular.
B: I like them, too.
A: Really? How many comic books do you have?
B: I have about twenty.

Let's Try!

☐ Miki has ^{many} friends in Australia.
ミキはオーストラリアに友達がたくさんいます。

☐ How many classes do you have ^{each} (day)?
あなたは毎日いくつ授業がありますか。

☐ She has a ^{long} table.
彼女は長いテーブルを持っています。

☐ Let's have a ^{break}.
休憩しましょう。

☐ They have a long break ^{between} second (and) third periods.
彼らは2時間めと3時間めの間に長い休みをとります。

☐ "How long is the class?"
"It's fifty ^{minutes}."
「授業の長さはどれくらいですか?」
「50分です。」

☐ We play in the schoolyard ^{or} eat snacks.
わたしたちは校庭で遊んだり、おやつを食べたりします。

And More Words

about 大约

3 語彙の補充

補充語彙が必要な場合には、**And More**

Wordsというコラムにまとめ、利用できるようにしています。たとえば1年別冊p. 32のLesson 7 Part 1 では、canの練習で“can speak”が出てきますが、And More Wordsで補充語としてFrench, Chinese, German, Koreanが提供されており、表現活動がスムーズに行えるしくみになっています。

また、1年別冊p. 19のLesson 4 Part 3のようにAnd More Wordsのほかに既習の語句について**覚えているかな?**というコラムが設けられているところもあります。PLUS Dialogで“I have a grandfather in Okinawa. He is so gentle.”という発話が出てくるので、ほかの親戚についても性格などが言えるようにするなど、表現に使える既習の語彙が復習できるように工夫しています(紙面例2参照)。

紙面例2 1年別冊 p.19

覚えているかな?

- 親族
grandmother / cousin
- 性格
friendly / hard-working / kind / popular / sweet

4 Let's Try!

右段の**Let's Try!**では、新出語や連語を含んだ文が日本語とともに挙げられています。スペリングや日本語を確認しておくのに使えます。基本の反復練習は、定着のためには欠かせないことです。この部分は自己学習に最適であり、自分でチェックする習慣がつけられる、いわばself-study kitです。Let's Try!で表現の口慣らしをしておいて、PLUS Dialogに進むのもよいでしょう。Let's Try!で自己学習をする➡PLUS Dialogでは新しい文脈で基本文を練習する➡PLUS Activityでさらに発展的な対話の練習や書く練習をする、という流れを作っていくのもよいかもしれません。

5 談話の流れの重要さ

PLUS DialogもPLUS Activityも、対話の流れが自然になるように作られています。基本本文をセンテンス単位で練習していたのではいつまでたっても話せるようにも書けるようにもなれないでしょう。

別冊では、対話ならABAかABAB以上の長さとなっており、パラグラフの場合には一貫性のあるまとまった形が出ています。つまり、談話（discourse）の自然な構造をもった練習ができるという点でもコミュニケーション能力の育成にふさわしいものであると言えます。

6 「ことばの機能」の明示

各ページ、パートごとに、どのようなコミュニケーション機能を練習するのかを明示してあります。本文の目標に沿って、より簡潔に達成すべき機能目標を挙げており、意味重視のコミュニケーション活動をすることをねらいとしています。

7 まとめ

別冊**Essentials**は、教科書で学習したことの定着を活動を通して図り、さらに表現の幅を広げていくことができるように作られています。PLUS Dialog, PLUS Activityのリスニングの部分は教師がリードすることになりますが、対話などは生徒が自分たちで取り組む習慣がつけられるとよいと思います。

ここでは、別冊と教科書本文の関連と使用方法についての例を紹介します。

たとえば、2年本冊、pp. 62-63のLesson 5 Part 4の本文はハロウィーンの話で、言語材料は不定詞の形容詞用法となっています。Activityでも単語の穴埋めで不定詞の部分を入れさせる問題にとどまっています。それに対し、別冊のPLUS Dialogでは不定詞の

紙面例3 2年別冊 p.24

〔理由を言う〕

PLUS Dialog



修学旅行

最初に英語を聞いて、ペアで対話しよう。
次に下線部を自由にかえて対話しよう。

A: Hey, do we have time to visit that shrine?

B: No, there's a long line. I don't want to wait.

A: There are so many famous shrines to see in Kyoto.

B: Right! We need to come back another day!

And More Words

shrine 神社 a long line 長い行列

another day 別の日に

◆Buddha statue 仏像

部分だけを換えるのではなく、その前後の部分も換えることで意味のある対話を作らせようとしています（紙面例3参照）。

訪れるべき場所、ある場所で見るとべきものを入れさせて、発表させることができるような流れを作っています。Bが「長い行列がある」、「また来なくては」などと言っているの、Bのセリフが自然な発話となるようにAのセリフを作らなくてはなりません。不定詞の部分のみの穴埋めをするよりもコミュニケーション的な活動になっています。

また、PLUS Activityでは「例を参考に書こう」となっていますが、学習者の作文によっては、新しい文章を書かせるのではなく、これを読んで理解し、より簡単な英語に書き直すなどの活動もできると考えられます。

別冊の利用法はいろいろ可能かと思いますが、先生方のアイデアで大いに活用していただければと思います。

小学校外国語活動との連携

京都教育大学 泉 恵美子

1 変わる小学校英語と小中英語の違い

平成32年度より、小学校中学年で外国語活動が必修に、高学年では外国語が正式教科になることがほぼ確定した。同30年度より移行措置期間として順次実施されることになる。時数については、中学年で週1コマ程度、高学年では週2コマ程度として検討されており、今年度中には決定される見込みである。

教科化されれば、教科書もでき、中学校英語も大きく変わることになるが、現在は高学年で『外国語活動』が年間35時間必修として、主に学級担任がALTやJTEとのチームティーチングか、単独で指導している。

目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」であり、主に体験的活動を通して英語の音声や表現に慣れ親しませ、中学校と同様にコミュニケーション能力を育成することが大きな目的となっている。

文部科学省は補助教材として、*Hi, friends! 1, 2*を作成し、全国の5・6年生の児童に配布し、準拠CD、デジタル版、指導資料等が各学校に配布されている。さらに、今年度より補助教材として *Hi, friends! Plus* が作成され、研究開発学校等で使用されている。

授業では歌やチャンツ、クイズやゲーム、コミュニケーション活動や劇、絵本といった様々な活動や教材を用いて英語の音声をたっぷり導入し、身体を使って英語の意味を理解させたり日本語と異なるリズムや発音などに気づかせたりといった指導がなされており、英語を覚えたり定着させたりといったことは

行われていない。技能も聞くこと、話すことが中心であり、小学校で音声を中心であったものに、中学校では読むこと、書くことが加わり、文法事項の理解、定着まで丁寧につなげていくことが必要となる。

英語嫌いや苦手意識を持つ生徒が生まれないように、小学校英語の良さを引き継ぎ、小中の段差を低くし、ソフトランディングさせるとともに、英語学習に対する動機づけや、「活動」から「学習」へと意識の転換を図ることも必要である。

2 ONE WORLD English Courseの 小中連携と接続

28年度版では随所に小中連携の視点を取り入れ、無理なく小中接続が出来るように工夫されている。指導内容や到達目標の系統性、指導方法の継続性、小中連携カリキュラムを意識して**Springboard 1～10**を配列してあり、それらを活用することで、小中接続がスムーズに進み、小学校で楽しく学び、馴染みのある語彙や英語表現を思い出させながら、内容を復習し、さらに文字指導につなげていくことができるよう、十分な活動が用意されている。

例えば**Springboard 1「あいさつをしよう」**では、先生と生徒、生徒同士が英語であいさつを交わす場面が設定されているが、音声で繰り返し用いた表現を英語でも目にすることが出来る。**Springboard 2「こんなときはこう言おう」**では、授業で用いる教室英語を取り上げ、最初から無理なく英語の授業を英語で行うことが可能となる。また、TPR (Total Physical Response) を用いたサイモン・セズ・ゲームは小学校でもよく行われているので、楽しく身体を用いて教室英語を場面とともに習得させたい。

Springboard 3, 4 「身のまわりの英語①, ②」では、小学校で取り上げた語彙を復習しつつ、音声－意味－形式（つづり）をつなげる活動となっている。テーマとしては、自分の部屋、教室、公園、食べ物、フルーツ、野菜、スポーツ、楽器、国、職業など、小学校で慣れ親しんだ内容である。活動は、自分で絵をヒントに英語を言わせたり、英語を聞いて選ばせたり、タッチング・ゲームやスリーヒント・ゲームといった小学校で行ったタスクを用いて、個人、ペアやグループで楽しく復習しながら、語彙や表現の整理ができる内容となっている。そして最後には自分の好きなもの、出来ること、行きたい国、将来の夢などを言わせ、自己表現活動へとつなげていく（紙面例1参照）。小学校卒業時の外国語活動の内容を、中学校の入門期に振り返らせることで生徒には外国語活動の学習内容を思い出させ、教師は生徒の習熟度合いを確認できる。また、外国語活動で取り扱ったその他

の語彙（月、天気、気持ちなど）も、Time for Words や巻末 Words & Words でまとめて整理することができる。

Springboard 5 「アルファベットに親しもう」では、アルファベットの大文字・小文字の形と順番を認識し、音に気づき、読み方が分かり、大文字と小文字をつなげることができるかどうかを確認する活動になっている。小学校でも用いたアルファベット迷路を取り入れ、楽しく文字に慣れさせる活動を設定してある。また、巻末のキーボードを用いてアルファベットを探すなど日常で役立つ活動も取り入れられておりICT活用にもつなげたい。

Springboard 6 「アルファベットの音とつづりに親しもう」では、アルファベットの音とつづりを結び付け、絵を見て単語を発音させながら音とつづりの関係に気づかせる活動を取り入れることで、音韻認識を高め、フォニックスの基本である1文字1音を取り入れたアルファベットジングルから、音の足し算

紙面例1 1年本冊 pp.8-9



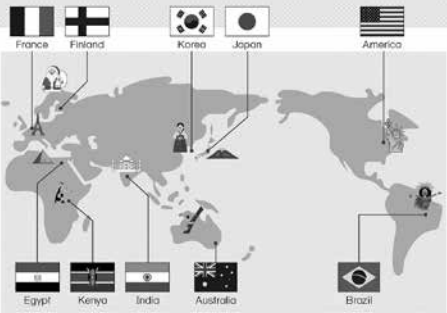
身のまわりの英語②

タッチング・ゲーム
ペアやグループになって、聞こえた英語の絵をタッチしよう。早くタッチできた人が勝ち。

1. 英語を聞いて、タッチング・ゲームをしよう。

2. 英語を聞いて、3ヒントワイズに答えよう。

3. 自分のことについて言ってみよう。



3ヒントワイズ
本人は立ちが自由についてきくつづりごとを覚えていきます。英語を聞いて、だれが知ってますか。



食べ物・飲み物

apples	bananas	grapes	peaches	carrots
green peppers	onions	curry and rice	pizza	spaghetti

スポーツ

badminton	baseball	basketball	soccer	volleyball

楽器

guitar	harmonica	piano	recorder	violin

職業

baseball player	bus driver	comedian	cook	doctor
farmer	florist	photographer	singer	teacher



国

France	Finland	Korea	Japan	America
Egypt	Kenya	India	Australia	Brazil

や音を聞いて3文字単語が分かるといった活動が取り上げられている。絵の中には初頭音が同じ単語がたくさん含まれており（Dの例: dog, doctor, desk, diamond, Decemberなど）、絵を用いて何度も聞かせたり言わせたりしたいものである。また、生徒に同じ音の他の単語を集めさせてみたい（紙面例2参照）。

紙面例2 1年本冊 p.13

2. 英語を聞いて、それぞれの単語を声に出して読もう。

D dog 	E egg 	F fish
J juice 	K king 	L lemon
P piano 	Q question 	R rabbit
V violin 	W watch 	X box

3. 英語を聞いて、○の中の文字を選ぼう。

① h a t ② j e t ③ p i g ④ d o g ⑤ c u p

Marshall | 13

Springboard 7「数字」は、基本的な数字を復習した後、電話番号や数字の計算など小学校の他教科関連で行った活動を取り上げており、その後生徒同士でクイズを出させても楽しい活動になる。

Springboard 8「曜日と教科」は、曜日と教科を取り上げ、小学校で行った活動の振り返りとなっている。曜日や月など間違いやすい語は、歌やチャンツを用いて何度も繰り返し発話させ、自動化できるようにしたい。

Springboard 9「色」は「ほしいものゲーム」として友だちの好きなものを推測しながらペアで質問をし合うインフォメーション

ギャップタスクになっている。

Springboard 10「名前を書こう」は教科書に登場する人物の名前と出身国名を聞かせてアルファベットをなぞって四線に書かせたり、巻末のローマ字表を用いて自分の名前を書かせたりして、ライティングの導入ができる内容である。

3 小中連携の留意点

英語の語彙や表現は小中で共通のものが多く、これまで中学校で教えられてきたものの多くが小学校でも取り扱われている。しかしながら、小学校では、文字は音声によるコミュニケーションの補助として指導することになっている。そこで、*ONE WORLD English Course*は、小学校で聞く・話す活動を通して音声で親しんできたものを、中学校で明示的に文法規則や文字を示しながら理解させ、定着を図ることを目指している。そのため、多くの絵などのヒントを与えつつ、無理なく中学校英語に入っていけるように、文字も最初から目にする事が出来るテキスト構成になっている。

また、小学校では達成感を感じていた生徒が、中学校で4領域を扱う中でつまずきが見られることも多い。小学校では「言えた」、「伝えられた」、「相手のことが理解できた」など、英語を聞いて理解したり伝え合うことが大きなねらいであったが、中学校では「話したことを書けた」、「聞いたことを読んで正しく理解できた」といった技能の統合や正確性も求められる。自然に文字に触れ、楽しく学ぶ文字指導や辞書指導を導入すること、異文化・自国文化の理解から、他者尊重・自己肯定感へとつながる学習内容を工夫することなどが大切であり、Springboard等の有効活用が期待される。是非本書を積極的に活用して、生徒の有能感を高め、新しい友だちや先生との英語でのコミュニケーションを楽しみながら英語学習への扉を開いてほしい。

音声指導から文字指導へ

大阪成蹊大学 赤沢 真世^{まさよ}

音声指導から文字指導へスムーズにつなげるために、Springboardの使い方を通して、中1の最初の段階で大切にしたい指導について述べたいと思います。

第一に、小学校での音声の積み上げを生かし、文字と音のつながり、関係性に気付かせることを丁寧に行うということです。生徒たちは身のまわりの単語について、音声面での言語経験を豊富に持っています。また、興味関心のある生徒は、英語のスペリングにも意識を向けています。そのような段階でこそ、英語の音声と文字の関係性に気付くきっかけを活動として組んでほしいと思います。

第二に、「文字を書きたい、読みたい」という意欲は小学校高学年から徐々に高まっており、中学校での英語の授業で読み書きを進めていくことに期待感もあります。そのため、気付きとともに、「書けた」「読めた」という達成感も与えられるとよいと思います。

けれども一方で、第三の点として、文字への移行は、学力差や小学校での指導実態の差が見えてくる部分でもあります。そのため、指導の前や途中に生徒の実態を丁寧に捉えることが必要となります。

第四に、そうした学力差を克服するためには、ペア学習やグループ学習という形態を工夫して、認識の深まっている生徒を軸に学びあいを促すことも有効だと考えられます。

こうした点を意識して、以下、Springboard 5, 6について、具体的な指導例を紹介します。

Springboard 5 (教科書pp.10-11)指導例

小学校段階で、ローマ字の学習（小学3年、国語）や、*Hi, friends!*での学習（大文字・小文字）を行っています。すべての生

徒が完全に習得しているわけではなく、習得・定着状況の差は大きいと考えられます。本Partでは、各アルファベットの「名前」(A=[ei])の音声を、英語の正しい音声として意識して発音すること、そしてアルファベットの形の認識をふまえて、正しく書くことをしっかり指導することが大切です。以下に本ページの導入例を紹介します。

●アルファベットへの意識付け

T : (黒板に、あいうえお、かきくけこ…と板書) What's this?

Ss : ひらがな。

T : Yes. They are Japanese *hiragana*. How many *hiragana* letters are there?

Sl : 50くらい。

T : Yes. Do you know the letters of the English alphabet?

Ss : Yes.

T : 最初の文字は？

Ss : A.

T : (A aと板書する。)(Aを指して) This is a capital letter or *oomoji*. (aを指して) This is a small letter or *komoji*. Can you say the English alphabet? 英語のアルファベット全部言える人？(手をあげさせて言わせる。)

Sl : (何名か発表する。)

T : すごいね。じゃあ文字は全部でいくつあったかな。

Ss : 26。

T : そう！圧倒的に日本語より少ないね。じゃあ順番にみんなで言ってみよう。少しずつ発音の練習をしましょう。Repeat after me. ABCD.

Ss : ABCD.

T : EFG.

Ss : EFG.

T : HIJK.

Ss : HIJK. (以下、同様に下のように区切ってまとめて言わせる。)

ABCD / EFG / HIJK / LMN / OPQR /
STU / VW / XYZ

バリエーションとして、教師が拍手してリズムを取りながら言わせたり、徐々にペースを速くしたりすることもできます。また「ローマ字も漢字やひらがなと同じように、Aは水牛の頭の形から来ている」「Bは建物の構造図、Cはらくだのコブから作られた」など、成り立ちの話をして興味づけをしてもよいでしょう。さらに、漢字からひらがなができたように、大文字から小文字ができたことを伝えてもおもしろいでしょう(速く多く書くために小文字ができあがったと言われています)。

Springboard 6 (教科書pp.12-13)指導例

ここでは、アルファベットには「名前」のほかに「音」があることを知り、単語の始まりに注目して、文字と音のつながりに気付くことが目標です。

●アルファベットの「名前」と「音」の指導例

(1) pp. 10-11を使ってアルファベット26文字の復習をしてからの活動です。再び「A」に注目させます。

T : 今度は音に注目します。Aについて見てみると、ant, apple そして apron がありますね。ant と apple, 始まりの音はどんな音でしょうか？

Ss : [æ]と聞こえます。

T : そうですね。これをアルファベットの「音」と言います。アルファベットには「名前」(A = [ei]) のほかに、[æ]という

「音」があるのですね。apron は、「エイ」の名前がそのまま発音になっているのですね。そのような場合もあります。

なお、母音 (a, e, i, o, u) は「音」と「名前と同じ音」の2種類があることにも気付く生徒がいたら、その意見を引き出すとよいでしょう。

(2) 次に、「B」に注目させます。

T : How about “B”? What can you see in “B”?

Ss : Book. Bear. Banana. Bag.

T : Great! I can find one more thing. What do you say “蝶” in English?

Ss : Butterfly!

T : Yes! では、これらの単語の始まりの音はどんな音でしょうか。

Ss : [b] という音です。

T : そうですね。そして日本語の「ブ」よりも、息の破裂が大きくて、母音が聞こえませんね。このように、アルファベットの音は、「エイ」や「ビー」といった「名前」のほかに[æ]や[b]といった「音」があります。では、ほかのアルファベットも見てください。

その後は、いくつかのアルファベットに注目させます。グループ活動として、各班にアルファベットを割り振り、教科書の絵の中に隠された該当のアルファベットから始まる単語を見つけ出そう！という課題にしてもよいでしょう。[B, P, M, S, T] などが、音声と文字のつながりに着目しやすい例です。

以上のように、小学校外国語活動での言語経験を生かし、音声と文字のつながり・関係について、生徒たちが気付きを得られるように指導することがまず大切です。こうした気付きが、これから展開される中学英語の本格的な読み書きの土台になっていくでしょう。

※指導例は『ONE WORLD English Course 1 Teacher's Manual指導編』より抜粋

どうなる？ 次期学習指導要領と今後の英語教育

編集部

昨年10月末から、次期学習指導要領に向け、中教審（中央教育審議会）で議論が重ねられています。育成すべき資質・能力および英語教育の改善について、3月初め現在、示されている内容をご紹介します。

●全教科を通じて育成する資質・能力の3つの柱とは

小・中・高等学校、全教科において、以下の3つの「資質・能力」の柱をもとに、育成すべき力が学習指導要領で示されることになります。これが大きなポイントとなります。

- ・何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
- ・知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）
- ・どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

●新指導要領における小・中学校の目標

次期学習指導要領では、小・中・高等学校を通じて、学校段階間の学びを円滑に接続し、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、一貫した教育目標（指標形式の目標）などを提示する方向で改善を図るとしており、以下のように目標イメージが示されています（平成28年2月4日 中教審小学校部会第2回資料より）。

- ・中学校の目標案：「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、具体的で身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う」

- ・小学校高学年（教科型）の目標案：「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」

- ・小学校中学年（活動型）の目標案：「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声等に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」

●大きく変わる小学校、そして中学校

小学校高学年での正式教科化、中学年での必修化はほぼ確定していますが、焦点となっているのは時間数の確保です。高学年では「聞く・話す」の2技能に、「読む・書く」の2技能が加わることになり、週2コマの確保が必要とされています。そのために、短時間学習や、地域によっては長期休暇なども組み合わせ、地域や学校ごとに柔軟な対応ができる方向で検討が進んでいます。

指導要領は平成28年度中に改訂され、平成30年度から移行措置期間、平成32年度には全面実施の予定です。今から4年後には、4年間英語に慣れ親しんだ生徒が中学校に入学してくることになり、中学校現場にも大きな変革が求められることになりそうです。

※文科省資料のURL、継続情報を教育出版のサイトでお伝えします。

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>から「小学校のサイト」「英語」でお入りください。



英語教育推進リーダー研修を終えて

北海道名寄市立中名寄小学校 久保 稔



はじめに

小学校の教員になって10年が経ちました。これまで小学校の英語教育に関わって、さまざまな経験を積ませていただきました。その中で、昨年度参加した「英語教育推進リーダー研修」、それを地域に普及させるための研修実習、大学での非常勤講師などを通して学んだことを述べたいと思います。



中央研修で学んだ新しい視点

現在、小学校の外国語教育の正式教科化に向け、検討および条件整備が進められていますが、現場教員の中から、地域の英語教育を推進するリーダーを養成するために、外部専門機関と連携して実施されているのが、「英語教育推進リーダー中央研修」（以下、中央研修）です。5年間で全国で約千名が研修を受けるこの事業で、私は第1期生として、平成26年度の中央研修に参加しました。

中央研修は、集合研修Ⅰと集合研修Ⅱからなり、都内で各5日間の日程で行われました。私の勤務する北海道は東北地方とともにグループ①に属し、北関東に富山県を含めたグループ②と一緒に、合計47名と一緒に、英語力の向上や教授法の習得を目指した研修を受講しました。

具体的な研修内容としては、教室英語や歌の活用に加えて、絵本の読み聞かせや発音とつづりの関係（フォニックス）などがありました。この5日間の研修プログラムは、文科省と委託先のブリティッシュ・カウンシルが共同開発したもので、すべての講座を同機関勤務のネイティブ・スピーカーの講師が担当し、すべて英語で行われました。

研修プログラム自体もしっかりしており、たいへん多くのことを学ぶことができました。その中で、これまで受けた研修にはない「新しい視点」がいくつかありました。

1つめは、歌を指導するときに、CDを使わないというアプローチです。CDを使わないことで、速さを自由に調節することができたり、特定の部分を練習することができたり、児童を歌に集中させたりすることができそうです。もちろん、原曲を聞いてリズムや発音の仕方を理解することも重要です。しかし、大切なのは、児童の実態や場面に応じて指導方法を柔軟に変更するということです。その意味で、この手法を知ることで、自分の指導方法を広げることができました。

2つめは、絵本を指導するときに、一言一句、教師が正確に読む必要はないということです。これまで私自身、絵本に出てくる単語や表現をすべて読んでいましたが、挿絵の言葉やいくつかの表現を扱うだけで、児童は内容を理解し、単語や表現を覚えることができることを体験しました。また、発音や抑揚に気を付けたり、動作を付けたりすることで、子どもたちを物語の世界に引き込み、聞く力などの向上につながられることがわかりました。

3つめは、アクティビティのメリットとデメリットを把握することです。先に挙げた歌の活用のように、どの活動にも多かれ少なかれメリットとデメリットがあります。指導する側はそのことを理解し、活動の意図を明確にするとともに、子どもたちに目標や目的を持って取り組ませることが重要になります。



地域での研修実習の講師として

中央研修に参加した教員は、その研修内容

を地域に伝える役割を担います。私の地域では、今年度、昨年12月から1月にかけて、各校で英語教育の中核となる教員に対して、英語指導力の向上を図ることを目的に研修を実施しました。私が講師を務めた研修では、実際に活動を体験したり参加者どうしでディスカッションしたりすることを通して、少しでも各自の引き出しが増えること、参加者のつながりが深まることを意識しました。研修は8つのセッションに分かれており、計14時間、3日間の日程で行いました。以下がそのときの研修内容です。

- 教室英語 ○ALTとの打ち合わせ
- 単語や表現の学習 ○絵本の活用
- アルファベットの音声 ○歌の活用
- 授業指導案の作成
- 他教科等と関連させた活動

参加者は、英語の免許を持っている方から教務の方などさまざまでした。そのため、先生方のニーズも多種多様でした。この研修実習は、地域の全小学校から1名参加するまで行われる予定です。今後の研修でも、先生方のニーズに少しでも応えることができるように、研修の進め方を工夫していきたいと考えています。



地域研修で講師を務める筆者（左上）。「絵本を活用した指導法」では、参加者が自ら選んだ絵本を使って読み聞かせを行った

大学での 非常勤講師の経験から

今年度より、北海道教育大学旭川校で非常

勤講師を務めています。全15コマの内、外国語活動に関わる理論的な部分を大学の先生が担当し、小学校で実際に行われている外国語活動の実践的な部分を私が担当しています。ここでも、活動とディスカッションに重点を置くなど、中央研修で学んだことを生かして講義を行いました。

大学の授業では、大学生が、小学生に戻ったように楽しそうにアクティビティに取り組む姿が印象に残りました。教員にとって、「子どもの立場になって考えてみる」ことは、たいへん意味あることです。日々の業務に忙殺されて忘れがちな中、大学生の活動する姿を見て、子どもの視点に立つことの大切さに改めて気づかされました。

また、模擬授業やディスカッションの様子を見てみると、学生ならではの斬新なアイデアや新鮮な考えに触れることもできました。「教学半」という言葉がありますが、講義をしている私が大学生から教わることがたくさんありました。大学での講義は来年度以降も担当することになっています。講義を通して学んだことを、子どもたちへの授業に生かしていきたいと思っています。



おわりに

昨年10月、中央研修に参加した他県の先生方と懇親会を行いました。外国語活動の授業についての悩み、研究会の情報交換、研修実習の様子交流など、途切れることなく話は続けました。英語拠点校での勤務だったり、英語専科としての指導だったり、立場はそれぞれですが、どの先生も児童一人ひとりのことを考え、実践を積み重ねています。そんな素晴らしい先生方と出会えたことに、幸せを感じています。

困ったときには助け合える、互いに刺激し合い成長できる仲間との関係を励みに、これからもよりよい授業のために研鑽を続けていきたいと考えています。

とっておきの英語・11

Sometimes the things that may or may not be true are the things that a man needs to believe in the most.



邦題：『ウォルター少年と、夏の休日』
原題：Secondhand Lions
製作国：アメリカ
製作年：2003年
監督：ティム・マッキャンリーズ
主演：ハーレイ・ジョエル・オスメント
DVD発売元：ポニーキャニオン

津田塾大学大学院 野田 小枝子

ティム・マッキャンリーズ監督による2003年公開の映画『ウォルター少年と、夏の休日』は、英語のタイトルを*Secondhand Lions*（中古のライオン）といいます。

14歳の少年ウォルター（ハーレイ・ジョエル・オスメント）が、母親の2人の叔父（ウォルターにとってはgreat-uncles）であるハブ（ロバート・デュヴァル）とガス（マイケル・ケイン）の家に住むことになった夏の話なので、日本語のタイトルはまさにその通りを表現しています。

ハブとガスが住んでいるのはテキサスの田舎にある古びた一軒家です。ところが、この映画のストーリーは、静かで平穏な老人の生活に、少年が退屈しながらも癒されていく話ではありません。ハブとガスの生活は非日常的な冒険と興奮に満たされています。

ウォルターの母親は、シングルマザーとしてウォルターを育てていますが、ウォルターが邪魔になると施設に預けたりします。大叔父のところに預ける事情は自分が速記者養成学校（College of Court Reporting）で勉強するためだと言うのですが、どうやら

ボーイフレンドとの時間を作りたいためだったということがウォルターには後でわかってしまいます。さらに、大叔父たちがかなりの財産を隠し持っているという噂を聞き、その隠し場所を探るようにとウォルターに言い含めるのです。

なぜ原題が*Secondhand Lions*なのでしょう。

この映画には確かに動物園から払い下げられた中古のライオンが登場します。エキセントリックな大叔父たちがライオン狩りをしてから毛皮にしようという目的で注文したのですが、元気のない雌のライオンだったので、ウォルターのペットとして檻の中で飼うことになりました。

このライオンが、あるとき檻から出てコーン畑に住みついて、ウォルターに危機が迫ると出てきて助けようとしていたりします。

でもライオンは一頭です。複数ではありません。このタイトルの謎は、映画を見るうちに、解けてきます。

ガスがウォルターにせがまれてハブの冒険談を話すところから、ストーリーの中に

大叔父たちの若いころのストーリーが再現されます。

テキサスを出てフランスに渡った二人が、外国人部隊の兵士として徴兵されてしまい、多くの戦いで活躍した後、アフリカにも行ったこと、ハブがジャスミンという美しい女性に恋をして、そのために、いいなづけであった族長に追われることになり、懸賞金までかけられたにもかかわらず、殺し屋に化けたガスが懸賞金をもらい、二人で族長をやった話など。

ウォルターは自分の部屋にあてがわれた屋根裏部屋の古いトランクの中から、美しい女性の写真を見つけます。ウォルターはガスの話を聞いてそれがジャスミンだと信じます。ライオンにもジャスミンという名前をつけました。

下にご紹介するのは、ウォルターがハブに、アフリカの話は本当なのかと尋ねる場面のセリフです。母親が嘘ばかりつくので、大叔父の話も一応疑ってかかっています。

Walter : Those stories about Africa...
about you...
they're true, aren't they?

Hub : Doesn't matter.

Walter : It does too.
Around my mom all I hear is lies.
I don't know what to believe in.
Hub : If you want to believe in something,
then believe in it.
Just because something isn't true,
that's no reason you can't believe it.

Hub : Sometimes the things that may or
may not be true are the things that
a man needs to believe in the most.

(本当かどうか分からないものこそ人がいちばん信じないといけなものだったりする。)

Hub : That people are basically good;
that honor, courage, and virtue
mean everything;
that power and money,
money and power mean nothing;
that good always triumphs over
evil;
and I want you to remember this,
that love...
true love never dies.
You remember that, boy.
You remember that.

ハブの人生訓です。今回の「とっておきの英語」に選んだところだけ日本語をつけましたが、ご覧のように全体的にわかりやすい英語のセリフです。ハブを演じるロバート・デュヴァルがなかなかよい味を出しています。

これで、英語のタイトルの *Secondhand Lions* の意味がおわかりかと思います。ハブもガスもライオンなのです。年はとっていますが、心の中では若い日の冒険の世界をまだ生きているのです。自分が信じていることを大切にしてください。

荒唐無稽な冒険談をウォルターは信じました。そして大叔父たちに育てられることになります。

大叔父たちの冒険談は本当だったのでしょうか。それはこの映画の最後で明らかにされます。

私たちの周りにも *secondhand lion* たちはいるかもしれません。そして、「何が本当かを見極めるのは君なんだよ。」と言っているかもしれません。

Bouncing balls: The impact of sports on English

～スポーツにまつわる言いまわし

Peter J. Collins
Tokai University

日本語の会話のなかで、「登板する」「直球の質問」など野球用語を使うことがありますが、英語ではどうなのでしょう？
コリンズ先生に訊いてみましょう！

I've never really been a "sporty type." I enjoy playing tennis, but I would never spend time watching it on TV. What I do find fascinating, however, is how many sports idioms have made their way into the English language – there are dozens that derive just from ball games! Each expression lends a sense of action to what we're saying, regardless of what the topic of conversation is.

Let's **get the ball rolling**, shall we?

Of course, that was the first example. We might use this expression at the start of a project or negotiation, or something more concrete, like a meeting or a party. This phrase may trace its origins back to croquet games in the 18th and 19th century.

A more recent addition to the language describes an entirely different or changed situation, perhaps difficult to adjust to. You might overhear students saying,

"Junior high school was fun, but high school is **a whole new ball game!**" If they seem to have trouble focusing in class or keeping up with assignments, their teacher may advise them to **keep their eye on the ball**. And when it's time for one of them to take initiative or responsibility, they might be warned that it's time to **step up to the plate** – a baseball metaphor recalling an image of a batter approaching home plate. This expression might also be used to mean to do the right thing, as in "It's time you stepped up to the plate and admitted that you're the one who broke the window."

Once we've adjusted to the pace and style of a new environment or activity, we can assure ourselves and others that we're really **getting into the swing of things**. This allusion to golf or tennis began to appear in the late 1800s. Getting into the swing of things at your new job may depend on who **calls the shots**, or makes all the decisions, in the office. This

idiom comes from billiards, where each player is required to announce their next shots, for example, "Green ball in the side pocket."



Some situations, on the other hand, allow – even require back-and-forth negotiation. Let’s say that you’ve had a great job interview; you really **bowled the interviewers over**, or impressed them (a bowling reference). Now **the ball is in their court**; there’s nothing you can do but wait for the interviewers to decide whether you’re hired.

A week later, one of the interviewers calls you with good news. “We really think **you’re on the ball** and the duties of the job all seem to be within **your wheelhouse!**” Both these idioms remind us of baseball. To be on the ball means to be ready and able, or be mentally sharp and aware. In baseball’s early days, a sneaky pitcher might strike out batters by “having something on the ball,” in other words, by adding something slippery like saliva to the ball. And each batter has a different wheelhouse; this is the part of a player’s swinging range where they can make the best contact with the ball. So if someone says, “Teaching grammar is really outside of my wheelhouse,” they mean that it’s not part of their knowledge or expertise.

Other images are borrowed from baseball to describe how people interact with each other. If someone you’re dealing with is a tough negotiator, you can say that they **play hardball** (as opposed to softball). And if they say or do something surprising or tricky, you might say, “Wow – he really **threw me a curveball**” or “I wasn’t ready for that **fastball** she **threw** me!”

The left fielder, in baseball, has the longest distance to throw the ball in order for it to get to first base. Left field, as a result, has come to connote something unexpected – even strange. If you have trouble following

conversations, or tend to give answers that are unconnected to the questions, someone might accuse you of always being **out in left field**. And if you know you’re about to share an odd-sounding idea, you might introduce it by saying, “This may be **coming from out in left field**, but...”

Being off base is more serious than being out in left field; if you say or do something that is unfair, untrue, or unkind, you might be told, “You were way **off base** when you...” As a follow-up warning, you might be told, “**That’s strike one!**” And nobody wants to hear, “**That’s strike two!**” My sixth grade teacher was a terrifying woman; her favorite curveball was to point at a student (sometimes me!) without warning and shout, “**Three strikes – you’re out!**” and punishment would follow.

We might describe disadvantages as strikes, as well. For example, “Right from the beginning of the project, we **had two strikes against** us. For one thing we didn’t have enough time. And for another...” More seriously, if someone is stuck in a particularly difficult position, they might complain that they’re **behind the eight ball**. The allusion is to billiards; when the white cue ball is behind black eight ball, there is usually no way for the next player to make a shot.

A stoic response might be “**That’s the way the ball bounces,**” in other words – there’s nothing that can be done; it’s destiny! My own destiny may not be a life of playing sports, but I’m happy to borrow the language of ball games whenever it will help me make my point.





第14回

地球となかよし メッセージ 作品募集 (2016年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2016年 7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

○主催/教育出版 ○協賛/日本環境教育学会
○後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
※協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

入選作品
前編



受け継がれる伝統と心

私は中学校で、かるた部に所属しています。私がかるたを始めたのは小学校四年生の頃です。私はこのときから、かるたが好きです。理由は、男女も年齢も関係なく、平等な立場で試合に立ち向かえるからです。また、いろいろな年代の方と話したり、仲良くなったりできるところも、試合をしている全員が、古くからある百人一首を一生懸命とっている姿も私のお気に入りです。百人一首が現在まで残っているのは、日本人が百人一首を大切にしてきたからだ、私は思います。なので、私も大好きな百人一首をこれから先も残せていけるように、かるたを続けていきたいです。

英語教育 通信 ONE WORLD Info (2016 年 春号) 2016 年 3 月 31 日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光
印刷: 大日本印刷株式会社 発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社 〒812-0007 福岡市博多区2-11-30 クレセント東福岡E室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411